

**製品名: MAP1A ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13622**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	308kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MAP1A
別名	MAP1L
遺伝子 ID	4130.0
SwissProt ID	P78559
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。AA 範囲: 1860-1940

**背景**

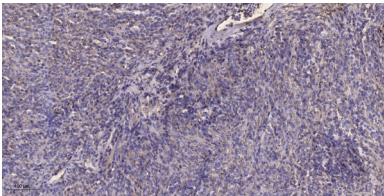
この遺伝子は、微小管関連タンパク質ファミリーに属するタンパク質をコードしています。このファミリーのタンパク質は、神経発生の重要なステップである微小管の組み立てに関与していると考えられています。この遺伝子産物は前駆体ポリペプチドであり、お

そらくタンパク質分解を受けて最終的な MAP1A 重鎖と LC2 軽鎖を生成します。この遺伝子の発現はほぼ脳でのみ見られます。ラットの微小管関連タンパク質 1A 遺伝子に関する研究では、脊髄発生の初期段階における役割が示唆されています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],ドメイン: 反復配列を含む基本領域は、MAP1A の微小管への結合に関与していると考えられる。、機能: 微小管と他の骨格要素との間のフィラメント状の架橋に関与する構造タンパク質。、PTM: LC2 は、タンパク質分解によって MAP1A から生成される。、PTM: DNA 損傷時にリン酸化される。おそらく ATM または ATR による。、類似性: MAP1 ファミリーに属する。、サブユニット: 3つの異なる軽鎖 (LC1、LC2、LC3) は、MAP1A および MAP1B タンパク質と結合することができる。TIAM2 と相互作用する。DLG1、DLG2、DLG4 のグアニル酸キナーゼ様ドメインと相互作用する。、組織特異性: 脳。、

## 研究分野

シグナル伝達; 細胞骨格/ECM; 細胞骨格; 微小管; MT 関連タンパク質; MAP; 神経科学; 神経プロセス; 神経発生

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°Cで一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45 分)。